

東北部会第 47 回学術大会の開催にあたり

(社)日本放射線技術学会 東北部会第 47 回学術大会

大会長 三浦 初男

東北部会第 47 回学術大会を秋田県において開催するにあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

秋田県で本学術大会が開催されるのは、平成 14 年 9 月に大潟村で開催された第 40 回学術大会以来 7 年ぶりです。当時は懇親会でお酒を飲んだ後、本音で話し合うための「夜の懇話会」があったことにより温泉地での開催でしたが、4 年前より市街地での開催となっております。

平成 15 年に頭部用として薬事承認された 3T MRI は、その 2 年後に体幹部臨床応用が可能となりましたが、初期のころは必ずしも 1.5T に比べて利点ばかりではなく、不利益な点も少なくなかったです。しかし最新装置は RF 送信システムが刷新され、熱蓄積 (SAR) の問題も克服されつつあります。今回のシンポジウムでは「一般臨床機」となりつつある 3T MRI を取り上げ、1.5T を基準にして 3T の特徴と安全性に関して討論が行われます。

特別講演は、秋田市大森山動物園ミルヴェ小松園長に『動物のいのち見つめて』というテーマでご講演をいただきます。我々医療技術者は技術の向上を目指して研鑽しておりますが、心の温かい人間性の向上も伴わなくてははいけません。動物のいのちを見つめた講演を拝聴し、今一度「いのち」の輝き・尊さを心にとどめていただき、患者様の視点を大切にした医療を実践していただきたいです。

一般研究発表は、過去最多の 67 演題が寄せられました。多忙な日常業務にもかかわらず、演題を申し込んでいただいた熱心な会員の皆様には心より感謝申し上げます。また第 39 回学術大会からスタートしましたテクニカルミーティングは昨年同様 CR、CT、MRI、核医学と放射線治療の 5 分野で行われ、定着した企画となりました。

昨年は新たにセミナーが企画され、デジタルマンモグラフィの内容で 20 名を定員として募集いたしました。多数の応募があり選考せざるを得ませんでした。今年も継続して行い募集いたしますが、今後セミナーを学術大会にどう位置づけ継続して開催していくかの課題が残っています。

東北部会のエリアには 3 つの保健学科放射線技術科学コースがあり、将来の診療放射線技師が養成されております。この未来を担う学生に多く発表をしてもらうため、例年 9 月開催の本会をより発表しやすい時期に開催すべく 10 月としましたが、学生からの応募がなく、来年に期待をかけたいと思います。

今回の学術大会を開催するにあたり、皆様に参加した喜びを感じていただける大会にすべく実行委員が熱心に準備を進めております。多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。最後に、本学術大会の開催にあたりご支援、ご協力を賜りました関係各位に心から御礼申し上げます。